

社会福祉従事者の職種・資格を調べてみよう

福祉 社会福祉基礎 第2学年
石川県立加賀高等学校・教諭

1 事例の概要

本校は総合学科であり、生徒は2年次より各自の進路に合わせて授業を選択している。福祉科目を選択している生徒の中には将来福祉関連の仕事に就くことを考えている者もあり、福祉に対する意欲・関心は高い。ただし、全体的に受け身の学習になりがちで、自ら積極的に学習する機会が少ないのが現状である。

科目「社会福祉基礎」は福祉をはじめて学ぶ生徒の入門編であり、基本的な用語を確認するとともに、体験的な学習・調べ学習などを取り入れて、積極的に学習に参加する機会を多く設けるようにしている。この単元では、福祉従事者の職種を調べることで、仕事の専門性・相違性を知り、社会福祉従事者としてあるべき姿とはどのようなものかを考えていくとともに、自らの進路選択にも活かしてもらいたいと願っている。

また、調べ学習では内容をまとめる力、話しをする力にも力点を置いている。これは、3年次の「課題研究」の際に、自ら選んだテーマに沿って学習の成果を発表する機会があり、そのための練習としても位置づけている。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・社会福祉の分野にはどのような資格や職種があるのかを知り、それぞれがどのような役割を担いつつ、お互いがどのような関連性をもっているかを理解する。
- ・生徒自身が将来の進路選択を考える材料にしてもらうと同時に、地域社会の中でどのようなかわりを持つことができるのかを考える。
- ・社会福祉従事者として普段からどのような心構えで仕事に臨む必要があるのかを理解する。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 適切に発表させるための工夫

- ・教科書で取り扱われている資格や職種を中心にして、生徒が1人1資格・職種について責任を持って調べる。
- ・レジュメの作成については、仕事内容・資格の取得方法・実際の仕事先などを書くように指導する。
- ・発表方法について、発表用の原稿を作らせてどこにポイントを置いて話せばよいかを指導する。

② テーマに対する理解を深める工夫

- ・発表後に、生徒が内容確認や疑問解消ができるよう質疑の時間を設ける。
- ・テーマに関しての重要語句や最近の動向については、教師が補足説明をする。

③ 生徒が学習改善につなげる工夫

- ・全生徒が「授業発表評価用紙」に発表に対する評価を記入する。
- ・発表者は、評価の結果を受けて今後の参考とする。

3 指導の実際

(1) 生徒への事前説明（1時間）

- ① 発表形式の授業を行う意義
- ② レジユメの作成及び発表する際の留意点
- ③ 担当項目の決定（1人1資格・職種）



(2) レジユメの作成（4時間） 図書室での作業学習

- ① 参考文献の確認
- ② レジユメ原稿の作成…必要事項が盛り込まれているかを確認する。
- ③ 発表内容の検討…レジユメの内容を見ながら、重点をどこに置くかを検討する。



(3) 発表（2時間）

- ① 「レジユメ」の配布
- ② 発表者の説明
- ③ 質疑応答
- ④ 評価用紙への記入
- ⑤ 教師による補足説明



(4) 各授業後

- ① 評価表の集計
- ② 教師による発表者への指導



(5) 年度末

アンケート実施
（自己評価と授業方法についての意見など）

C-1 指導案

C-2 レジユメ

C-3 評価表

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 社会福祉従事者と言ってもさまざまな職種があり、お互いが関連し合っていることに気づき、興味関心を抱く生徒が増えた。また、将来福祉関連の進路を考えている生徒にとっては進路選択の手がかりとなり、授業終了後相談を受ける機会が増えた。
- ② 発表を通じて社会福祉従事者にはどのような資質が必要であるのかを考える機会になり、仕事に関する心構えを学ぶ上でよい材料になった。
- ③ 与えられた項目について、関連の書籍やインターネットなどを活用して調べることで、教師が一方的に知識を提供するものとは違う刺激があった。また、発表形式と言うことで各自が工夫をしながら準備をしており、発表後の達成感があったようである。

(2) 課題

- ① 自分が担当をした項目については理解が増したが、それ以外の部分については理解が浅く、教師側の補足が必要である。また、発表後に確認テストを行うなどの工夫も必要である。
- ② 発表形式の授業に慣れていない生徒が多く、説明が不十分なためレジユメの内容を生かせない場面が多く見られた。事前の準備段階での打ち合わせを綿密にする必要がある。
- ③ 発表会の後に専門職の方を講師として招き、理解度を深めるなどの工夫をすることが必要である。